



学校便り 太田っ子

令和3年11月1日

- めざす子ども像
- ㊦ もいやりのある子
- ㊦ もいっさり勉強する子
- ㊦ くましく生きる子

教科等別研修会

和歌山市のいくつかの小学校では、毎年10月と11月に「教科等別研修会」として、他の小学校の先生方に実際の授業を公開し、協議・検討を行う授業研究をしております。本校におきましても、例年国語の授業研究をしてきました。本年度も10月27日（水）に感染対策を取りながら、3年生と6年生の国語の授業を参観・検討してもらいました。

本校では「自分の思いや考えを伝え合い、深め合う子どもの育成～「3つの対話」を大切にしたい国語科の学習を通して～」とテーマを設定し、校内でも教員たちで授業のあり方を検討してきました。「3つの対話」とは、「教材との対話」「他者との対話」「自己との対話」のことです。子どもたちが授業において、この「3つの対話」を経ることによって、質の高い学びが実現できるものと考えて、日々実践しております。

この度の研究授業でも市内小学校の先生方と授業づくりについて意見交流することができました。参加者からは次のような感想をいただきました。



〔3年生参加者〕・友達の意見を聞いたり、発表したりするときのルールがきちんと4月からされてきているんだとわかる（何日かでは、こんなステキな子どもたちにはならないと）、とっても感心しながら見させてもらいました。友達の意見に「オー」とか「たしかに」とか「んー？」とかつぶやけるといのは友達を大事に思っているから、友達の考えを大事にしているからだと思います。私もがんばります！！

・子どもの学習規律がよく、落ち着いて取りくみ、また楽しそうにしている姿が印象的でした。叙述に基づき話をしているため、全員が何の話をしているのか分かっていました。見習いたいと思います。先生の表情もすごく素敵でした。勉強になりました。

〔6年生参加者〕・which型課題のめあてにすることで子どもたちの課題に対する意欲、意気込みが高く、とても楽しい一時間を見せてもらいました。対話を深めるための土台作りとして行う「いきなりテスト」や課題につなげるための「センテンスカード」、対話したくなる「which課題」など、子ども達の対話や思考を深める手立てがたくさん取り入れられていて、勉強させていただくことがたくさんありました。ありがとうございました。

・考えを書き終えた子同士、活発に意見を交わしている雰囲気。みんな笑顔。柔軟に考えを変えるところ。自分の言葉で表現している点。“対話”の土台が育っていることを感じました。

なお、当日は大学教授や教育委員会指導主事の先生方の指導・助言を受けることができ、今後の研究の進め方についても示唆をいただきました。保護者の皆様方には時間割変更等のご協力ありがとうございました。

（校長 市川 哲哉）